

長岡税務署長賞

税の意義と役割

新潟県立長岡高等学校

二年 藤原 想花

私の周りでは、今、新型コロナウイルスのワクチン接種についての話題で溢れている。ワクチンは無料で接種できるが、その費用は税金からきている。新型コロナウイルス関連でいうと、PCR検査、特別定額給付金、療養費、GOTOトラベルキャンペーンなどに多額の税金が使われている。自治体が検査を委託する医療機関や保健所で検査が必要と判断された人、濃厚接触者と認定された人などのPCR検査費用や入院費用は公費負担のため、自己負担をする必要はない。これらはすべて、私たちが納めている税金からきている。

このコロナ禍の中でも毎日の生活がコロナ禍以前の生活の状態に近付いていっているのは、国が税金を使って様々な対策を行ってくれているおかげだと思う。

しかし私はふと思った。特別給付金として国民全員が一人十万円ずつもらえたが、なぜ私たちが納めた税金をわざわざ一人十万円ずつという国民全員に同額を返すのかと。それな

ら税金の量を減らした方が良いのではないかと。そんな時に学校の現代社会の授業でインフレーションやデフレーションのことを学び、新型コロナウイルスの影響で経済が落ち込んでいて、十万円を給付することで個々の消費が増え、経済を復活させようと試んでいたのだと考えた。

税金を納めることに後ろ向きな人、税金の使われ方に不満を持っている人は少なくないように感じる。しかし、私たち、特に学生は税金があることによって国から様々なことが負担され、幸せな生活を送ることができている。全日制の高校生は、約百万円、年間の教育費を税金で負担してもらっている。

ごく当たり前に送っている学校生活だが、毎日学校で学べる環境が整っているのは、税金の支えがあつてこそそのものだ。

もしも税金がなかったら……。費用を気にせず一〇番や一一九番に電話できなくなる。子供たちが安心して学校で学べなくなる。安全に道路や橋を通行することができなくなる。災害時に助けが来なくなる。……。いかに私たちが納めている税金によって安心、安全が保障されているかがよく分かった。自分の納めた税金が誰かの役に立ち、誰かの納めた税金が自分の助けに繋がっている。そう考えると税を納めることに嬉しさを感じるだろう。このコロナ禍の中、助け合い、支えあいによって生活ができている。誰かの納税によって勉強することができていることに喜びを感じ、勉学に励むという形で応え、少しでも社会に貢献できる人になる。